

二部地区活性化だより

野上門の風

発行
二部地区活性化推進機構

編集会
総務部会

事務局

T689-4233
西伯郡伯耆町二部1562-1
二部公民館内
TEL・FAX 0859-62-7159



●二部小校門の拓士の像(辻 晋堂作)

(村の男) 1941年/木(鳥取県立博物館 蔵)

先人を伝える

校門に立つ 青年二人

鋤を杖にした 拓士の像

郷土が生んだ 彫刻家

異才 辻 晋堂の作による

建立は 戦中の昭和十六年 秋

それから 六十余年

これ迄ずっと 今後もずっと

登下校の児童を 見守る

そして また 農を大切にとも

呼びかける かの如く

この偉大な郷土の 先人

名譽町民 辻 晋堂のことを

親は子に 教師は生徒に

語り伝えて おきたいもの

あとに続く者を 期待しながら

九月十二日の「県民の日」記念事業で、二部生まれの彫刻家 辻 晋堂展が、米子市美術館、米子コンベンションセンターなどで開催されました。また、フォーラム等も開かれて、郷土のPRに大いに役立ちました。

平成十七年度 委員総会の開催

六月五日委員総会が開催され、平成十七年度の事業計画並びに予算が決定されました。引き続き、集落営農講演会が開催され、元農業試験場長 上田弘美氏の講演をききました。

▼平成十七年度事業計画▲

伯耆町の発足に伴い広域化した行政区域にあつて、住民が喜ぶ行政サービスは手薄になることが予測されます。これを補完し真に暮らしやすさを実現するには我々自主的組織の活動が必要となつてきます。こうした事にも力点をおき、新年度の活動計画を樹立致しました。従来続けてきた継続的事業の他に、地域の環境対策として集落の景観形成花木植栽の新規事業を取り上げました。

●総務部会

- 一 会報「野上川の風」年二回発行
- 二 先進地視察（日帰り）
- 三 むらづくり講演会の開催
- 四 まちとの交流イベントの企画

●産業振興部会

- 一 ふれあい交流ターミナルへの計画的出品販売
- 二 オキナグサ育苗販売
- 三 集落営農の実験採用

●住みよい環境部会

- 一 上下水道事業の促進
- 二 合併処理槽の普及（分散集落）
- 三 景観形成花木の集落植栽への支援
- 四 町のゴミ減量作戦への協力

●趣味と生きがい部会

- 一 たたらまつり、多々楽学園の支援
- 二 各種同好会活動の助長
- 三 二部谷風景の写真コンテスト継続
- 四 園芸講習会の開催

●健康スポーツ部会

- 一 町民運動会二部地区大会への協力
- 二 二部地区健康ウォーキング開催
- 三 健康講演会の開催

●福祉ボランティア部会

- 一 高齢者、障害者への支援活動
- 二 青少年健全育成及び学校行事への協力
- 三 道路・河川一斉清掃の実施（年二回）
- 四 河川ヨシ刈りボランティアの実施

平成16年度収支決算書

収入総額 711,208円
支出総額 348,484円
差し引き 362,724円

→ 翌年度へ繰り越し

収入の部

科 目	決 算 額	摘 要
会 費	194,500	389世帯x500円
特 別 会 費	29,000	役員負担10人分
補助金・交付金	247,600	町補助金
繰 越 金	240,103	前年度繰越金
雑 収 入	5	預金利子
合 計	711,208	

支出の部

科 目	決 算 額	摘 要
会 議 費	38,500	役員会費
事 業 費	188,394	会報印刷費 総会費用 道路等清掃奉仕活動費 写真コンテスト ウォーキング弁当代他 その他
視察研修費	88,540	視察研修助成金
事務局費	33,050	複写機トナー代 他
雑 費	0	
予 備 費	0	
合 計	348,484	

平成17年度収支予算書

収入総額 714,000円
支出総額 714,000円
差し引き 0円

収入の部

科 目	予 算 額	摘 要
会 費	200,000	400世帯x500円
特 別 会 費	0	
補助金・交付金	150,000	県・町補助金
繰 越 金	362,724	前年度繰越金
雑 収 入	1,276	預金利子
合 計	714,000	

支出の部

科 目	予 算 額	摘 要
会 議 費	30,000	会議費
事 業 費	500,000	総務部費 産業振興部費 住みよい環境部費 趣味と生きがい部費 健康スポーツ部費 福祉ボランティア部費
視察研修費	90,000	先進地視察費
事務局費	40,000	事務費等
雑 費	5,000	雑費
予 備 費	49,000	
合 計	714,000	

野上川ヨシ刈り作業を実施して

●福祉ボランティア部会長

中田 寿国

一昨年から行っている野上川のヨシ刈りを今年度は二部保育所前の白濁橋から福島橋下までの間、約一、二〇〇米を実施しました。八月二十八日、早朝六時からヨシ刈りを（四五名）、九月四日は朝八時から刈り払いした草の集草作業を（三二名）夏の炎天下にも関わらず多数の参加者により無事終了することが出来ました。大変にお世話になりました。お疲れ様でした。

この取り組みについては、昨年まで県の日野総合事務所において、そして今年度は合併により西伯郡となったため西部総合事務所の事業「地域が育む河川環境保全事業」として、草刈り等の河川環境保全活動を通して、地域の活性化を図ることを目的としたものであり、それに対し必要経費を支払っていました。あくまでもあります。

終戦後の高度成長に伴い自然環境が大きく変化しました。私達の生活様式も同じよう変わり、石油製品、燃料等のいわゆる化石燃料の使用に依存している社会となっています。ビニール製品、発泡スチロールが河川を汚し、ヨシが繁茂している風景は何とも情けないと思いがちに見過してしまいます。昔のように子供達が安心して川遊びをしている

光景を取り戻したいと思っています。

少し硬い話しになりますが、世界全体として取り組みをしている、「地球温暖化の問題」、そして、資源のリサイクル等の循環型社会建設の課題など、今後、私達個人個人と行政が一体となって実行しなければならぬ事項が山積していると思います。

最後に、今回の作業に参加して戴いた皆様にお礼を申し上げると共に、住みよい「まちづくり」のために以後のボランティア活動に対し、地域の皆様方の参加をお願い致します。

なお、参加者の少なかった集落のご協力を切望します。



刈り取り作業開始直後（初日）



集草作業終了直前（2日目）

サクラの植栽で 美しい二部谷を!!

地域の皆さんには、日頃から本会の活動にご理解を賜り、またここ数年來多くの方がたから会費拠出のご協力をいただき、会の台所も大きく改善されました。そこで今年度から、会員各位への返礼サービスとして、共同による花木植栽を支援するよう去る六月の委員総会での決定をみました。

細部は後日、「景観用花木植栽支援事業」の実施要綱を確定して、部落代表者のお手を煩して周知する予定です。花木植栽支援の概要は次の通り

一、主旨

環境美化の一助としてサクラ等の花木を、集落単位で共同植樹する場合に苗木を無償で現物供与する。

二、供給苗木の種類

原則サクラ（染井吉野、八重桜、河津桜）とするがハナミズキ、ヤマボウシ等も対象として相談に応じる。

三、供給苗木の本数

苗木供給の本数は会費納入者の数に、サクラなら二本を乗じた本数（但し単価の高い河津桜やハナミズキは一本を乗じる）を上限とする。

四、事業実施は二カ年計画

集落の申込み順に受け付けるが、予算の都合で次年度に繰り越す場合がある。

五、その他

植栽は、十二月～三月とし厳寒期は避ける。植栽方法は別途指導を行う。事業の申請期限は十一月末とし事務局（二部公民館）に準備した用紙によって行う。

支援概要は以上の通りですが、集落で話し合ってみて下さい。

今年も継続

二部谷の風景写真コンテスト



昨年から始めた「二部谷の四季」と題した風景写真のコンテストを引き続き実施します。実施要領は前年並ですが、変わった点は一人当たり五点以内としたことです。め切りは一月末日とし、多くの方の応募をお待ちします。

もつともつと美しい二部谷を発掘してみして下さい。発表は二月下旬の「たたらまつり」です。

☆本年度は、新町発足により議会と農業委員会の改選があり、役員も一部変わりました。

● 役 員 名 簿 ●

会 長	住田 泰									
副 会 長	谷口 包夫	白根 暢之	花田 敏子							
監 事	中田 英明	谷口みどり								
事 務 局 長	伊澤 成仁									
書 記 会 計	忠田 寿子									
部 会 長	田邊 公教	藤田 常雄	影山 辰雄	福吉 艶子	大森 英一	中田 寿國				
副 部 会 長	和泉 克司	車 睦宏	浅田 泰弘	金田美紀夫	山口 秀男	田辺 泉				
顧 問	安達 允									

● 部会別委員分担表 ●

◎部会長 ○副部会長

総 務 部	◎田邊 公教 加藤 正純	○和泉 克司 和田 正純	安達 良文	舟越 一文	樋口 春子	小川 幸子
産 業 振 興	◎藤田 常雄 杉原 弘徳 細田 朋子	○車 睦宏 田村 清	三島 透	南葉 正明	金田 宏	山本 厚子
住 み よ い 環 境	◎影山 辰雄 西村 喜伴	○浅田 泰弘 米原 敏明	○金田美紀夫 天場 正実	安藤 勉	山口 代子	
趣味と生きがい	◎福吉 艶子 森谷 直之 奥田みさ子	○未定 田村 亀雄	樋口 栄	野口 由枝	八橋 啓子	仲田 稜子
健 康 ス ポー ツ	◎大森 英一 永井 欣也 八谷 静香	○田邊 泉 其山 守美	山本 芳史	田邊 仁朗	杉岡 聖子	長尾美喜恵
福祉ボランティア	◎中田 寿國 松原 清至 大森 紀子	○山口 秀男 安達 哲夫 土井 三紀	安田 紀恵	杉原キヨミ	山本さつき	山本 富美

あぜ草刈りの省力化

中山間地域では広い法面^{のりめん}を持つ畦畔が多く、その畦畔率も三割を越すところがある。高齢化の中で、あぜ草刈りは稲作の大きな負担となっている。

その省力化対策の一つに期待されるのが「グラウンドカバープランツ」（地被植物）による草種転換の新技术である。

草丈が短く、在来草に代って畦の補強力もあり、繁殖力旺盛な草種が望まれる。これによって草刈り作業が大幅削減できるという技術である。

最近の研究では地域に適した草種選択と草の定着工法に、ほぼ見通しがついたといわれる。注目される草の一つとして芝の一種「センチピードグラス」がある。活性化産業部会ではこの草の試作

展示を米子普及所の指導で計画します。適当な展示場所選びにご協力下さい。



センチピードグラス展示園 南部町八金

活動日誌メモ

(月日) (内 容)

平成十七年

- 四、二 役員会(総会対策)
- 六 二部札打ちウォーキング 五〇名参加
- 五、二八 道路河川一斉清掃 二六五名参加
- 六、五 委員総会、集落営農講演会(講師)元農試場長 上田弘美氏
- 二二 福祉ボランティア 大山望見学
- 二四 野上川ヨシ刈り打合せ 県土整備局へ
- 七、一三 環境、ボランティア合同部会
- 八、五 役員会(事業推進について)
- 二〇 スポーツ部会(同右)
- 二二 野上川ヨシ刈り打合せ 四五名参加
- 二八 野上川ヨシ刈り奉仕 三名参加
- 九、四 同集草奉仕 三名参加
- 十、上旬 総務部会(会報発行打合せ)
- 十、〃 会報第一〇号発行 配布

あどがき

暑さ、寒さも彼岸まで、彼岸とともに、大変涼しくなり一段と、秋らしくなってきました。昨年とは、打って変わり天候も順調で、稲刈りもほとんど終わりました。ようです。「伯耆町」が誕生して早くも九月たちました。新しい町の実感が、少しづつ定着しつつあります。一刻も早く期待どおりの町になることを望みます。

